

活動名称 (40字以内)	石垣島白保のサンゴ礁調査 赤土流出のモニタリングと現地文化体験		
団体名等	認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン		
活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input checked="" type="checkbox"/> 面接
	<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		2 人
	<input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
参加資格等	学部学生		
活動期間	2019/8/1(木)~8/4(日)	主な活動場所	沖縄県石垣市白保
	4 日間		
目的	海洋環境保全と生物多様性、観光産業との共存を考える		
具体的な内容 (800字程度)	<p>このプログラムは、学生がボランティアとして沖縄県の石垣島を訪問し、島内白保地区の珊瑚礁調査に従事するとともに、珊瑚礁生態系に影響を与えている陸上からの赤土の海洋流入について、その実態をモニタリングする作業に従事するものである。具体的には、スノーケリングで海に潜り、海水を採取し赤土堆積量の調査を実施する。また、石垣島において、ホームステイをし、住民と海とのかかわりについて聞き取り調査を行う。</p> <p>現地では筑紫女学園大学上村真仁準教授が指導する調査(アースウォッチ国内プログラム、石垣島白保のサンゴ礁調査)に参加する。この企画は、東大弥生キャンパス内に事務局を置くアースウォッチ・ジャパンと協働で実施する。また、事前に、沖縄の海洋生態系およびその漁業資源を利用する地域の人々について、本学農学生命科学研究科農学国際専攻国際水産開発学研究室(八木教授)から予め解説を行う。具体的な内容としては、前者については赤土がサンゴに与える影響のメカニズムなどであり、後者については、島外から移住してきた新規参入の漁業者と、従来から居住している漁業者との調整問題が存在している点などである。</p> <p>本企画では座学としての知識の事前の習得と整理、現地フィールドでの調査への従事という体験を通じ、海洋生態系と、それを活用する沿岸漁業従事者に対する理解を学生が深めることが期待できる。また、現地におけるプロジェクトの進め方などの手法についても理解を深める。</p>		
備考	<p>・事前レクチャー 6/27(木)17:00- 18:30 への参加必須。(場所は東京大学弥生キャンパスを予定)</p> <p>・シュノーケルができることが望ましい。(シュノーケルセットがあれば持参、現地でレンタル可)</p> <p>調査プログラム詳細 http://earthwatch.jp/pj_domestic/detail/detail_shiraho.html プログラム解説書 http://earthwatch.jp/pj_domestic/detail/briefing_shiraho.pdf</p>		
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)	その他*特記事項は以下に記載	
	交通費 実費 円 宿泊費 実費(25,000円位) 参加費 3,000 円 () 円 計 円	現地集合・現地解散となりますので自宅からの往復交通費は実費を個人負担していただきます。 参加費には、ボランティア保険加入費用および手続き費用が含まれます。 奨励金額 35,000 円	
ウェブサイト等	http://www.earthwatch.jp/index.html http://www.earthwatch.jp/about_us/images/ewj_2018report_web.pdf		